



竹を伐採 里山整備学ぶ

富山・五福小5年生

富山市五福小の5年生66人は18日、富山市西金屋のわくわくの森で竹の伐採作業を体験し、里山の適切な整備や自然保護の大切さを学んだ。

児童は、NPO法人きんたろう倶楽部のメンバーらの指導を受けてのこぎりを振るい、次々と竹を切り倒した。メンバーらは森の歴史なども紹介した。

児童に、地元の里山の魅力や課題について考えてもらうことを目的として行われた。

〇1日こぎりを切る児童

＝富山市西金屋のわくわくの森



「わくわくの森」の斜面に生える竹をのこぎりを使って伐採する児童

整備の大切さ 分かったけ！

富山 富山市五福小学校5年生66人が18日、同市の呉羽丘陵にある「わくわくの森」で竹林整備を体験した。伐採作業を通し、里山を守る大切さを学んだ。

【webunnに写真5枚】子どもたちに里山の役割を伝えようと、里山再生に取り組む同市のNPO法人「きんたろう倶楽部」が毎年実施。今年は、地元の金屋ふるさと会や住民らも参加した。

同倶楽部の中野康英副理事長は、竹の生育が早く、日光

五福小 竹林で伐採体験

を遮って他の植物の成長を妨げるとし「適度に伐採することで里山の荒廃を防ぐことができる」と児童に説明した。

児童はヘルメットをかぶり、のこぎりで斜面に生えた竹を切り倒した。のこぎりを使うのは大変だったけど、森がすっきりしてよかった「竹を伐採する意味が分かった」などと作業の大切さを実感していた。

切った竹は粉碎し、カブトムシを育てる土壌に利用する。